

## 銀賞

ポジティブウーマン、ここに誕生！

富士フイルムフォトマニュファクチャリング株式会社

舟谷 沙織

---

「なにかおかしい？」それは、私が初めて自分で感じた設備の異変でした。

私は2年前の異動で、カメラに装填するフィルムを小箱に詰め、出荷形態に包装する設備のオペレーター業務に配属されました。異動の話聞いたとき、私は「機械は苦手分野だし、壊れたらどうしよう」「オペレーターはやってみたい。壊れたら保全者に見てもらえばいいか」と考えていました。

異動してから2ヵ月が経った頃、いつも教えてくれているベテラン者が休暇で不在のとき、小箱に糊がつかず、蓋がされていないトラブルが発生しました。私は機械が壊れたと思い、保全者に連絡したところ、原因は設備内の糊を出すガンの位置がずれていたためとわかり、その日は何事もなく稼働を終えました。

後日、ベテラン者に呼ばれ「先日のトラブルはオペレーターが気づいて直さなきゃいけないよ。まだわからないことがたくさんあると思うけど自分の担当する設備だから、もっとこれからはよく見て判断しようね」とお叱りをうけてしまいました。私はそのとき「何で私が怒られるの？」とふてくさり、ベテラン者の言ってくれた言葉を素直に聞くことができませんでした。翌日、冷静になって言われた言葉を考えてみると、私は「トラブル時は保全者を呼ぶのが当たり前」「私じゃ直せないからしょうがないよね。だって苦手だし」と思っていることに気づき、はっとしました。私の心の中には「最初から自分には無理だ。やりたくない」という気持ちと、「保全者にお願いすればいいよね」という甘えた気持ちがありました。だんだんと自分の意識の低さに恥ずかしさを覚え、自分が情けなくなりました。

その日から、私は「最初から自分で無理と決めつけない。まずは自分で考える。自分で保全ができるオペレーターになる！」という目標をかかげ、意識を変えていきました。

それから2ヵ月後、糊を溶かすタンクの横を通った際、いつもよりタンク近辺が熱くなっていない感じがしたため、タンク内を見ました。少し溶けは悪いが糊は溶けている。表示されている温度も規定温度まで上がっている。初め私は「気のせい？」と思い、次の作業に取り掛かろうとしましたが、どうし

でも違和感が消えず、今度はタンクの蓋と周辺に触れてみました。「やっぱり、いつもより低い？」だんだん大きくなる違和感を無視できずリーダーに報告へ行ったところ、「実際の温度を測ってみよう」ということになりました。実際の温度を測ってみると、規定の160℃に対し115℃までしか上がっていないことがわかり、タンク内の配線が悪いのでは？とリーダーに相談しました。保全者に見てもらおうと、やはりタンクの配線が経年劣化により切れかかっていた。早期発見し保全者に配線を交換してもらったことで異常品の発生と配線による発火リスクの回避ができました。

リーダーから「ちょっとした違和感を放置しないで行動に移せたことがいいね」と褒めていただき、私は嬉しさと同時に自信がつき一気にやる気がアップしました。それ以来「とにかく挑戦！」が私の座右の銘となり、私生活での家具の組み立てや、ちょっとしたDIYが楽しくなりました。今では工具なんて握ったこともなかった私が、家具を楽しそうに組み立てているのを見て家族がびっくりしています（笑）。

「行動に移す、勇気と自信」

それを持てたことで、私はポジティブウーマンへと生まれ変わりました。これからも挑戦を信条に、楽しみながら自分がめざすオペレーターに近づいていきたいと思います。